

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和7年12月

（1）沖永良部島、与論島でさとうきび製糖が開始

12月1日に沖永良部島、12月12日に与論島でさとうきび製糖が開始されました。沖永良部島では、令和8年4月7日に製糖終了を計画しており、94,870tを圧搾予定で、2年連続90,000tを超える見込みです。与論島では、令和8年3月22日に製糖終了を計画しており、24,700tを圧搾予定で、2年連続20,000tを超える見込みです。農業普及課は関係機関と連携し、農作業安全に留意しながら圧搾計画が予定通り進むよう、引き続き支援します。

（2）与論町でVRを使用した農作業安全研修会を開催

12月9日、与論町役場で農作業安全研修会が開催されました。農作業事故の理解と知識を深め、事故発生防止を目的とした本研修では、講義や農作業事故経験者の動画視聴の他、与論島で初のVR（バーチャル・リアリティ）を使用した農作業事故体験のコーナーを設けました。研修参加者は、「360度の視野で実際の事故の様子が見られた」「貴重な体験ができた、もっと多くの人にもVRを体験してもらいたい」と感想を述べました。VRを使うことで事故発生の疑似体験ができ、農作業安全に対する意識が一層高まったようです。



（3）グラジオラス新規栽培者向け研修会で技術向上を支援

知名町では、初期投資が少なく、安定した販売が見込めるグラジオラスの推進を行っています。新規栽培者は確保できたものの、栽培の定着には技術向上が急務であることから、12月10日に今年3回目となる現地研修会を開催しました。最終回となる今回は、収穫方法をテーマとしました。先輩生産者のほ場で、実際に収穫を行いながら手順を学びました。当初は意見交換も少ない状態でしたが、3回目を迎えるにあたり、次第に発言が増え、主体性が見られるようになりました。今後も農業普及課では、関係機関と連携しながら技術向上支援を継続していきます。

（4）えだまめ先進地視察研修を実施

12月10日～12日に知名町のえだまめ生産者と関係機関・団体含む5名で先進地視察研修を行いました。研修では、出荷先の大田市場、販売先のクイーンズ伊勢丹品川店、静岡県でハウスえだまめの周年生産を行っているJAしみず駒越・三保営農拠点を訪問しました。市場関係者からは「物が少ない時期に出荷してもらえるのは助かる」、「出荷時期や出荷量の目安を早めに教えてほしい」などの声がありました。JAしみずでは収穫のタイミングや施肥、かん水量など栽培技術に関して活発な意見交換が行われました。



（5）トルコギキョウの土壤還元消毒効果を調査

11月27日～28日にかけて、与論町のトルコギキョウ実証ほ場2か所で、低濃度エタノールを用いた土壤還元消毒効果を確認しました。1番花の立枯病の発生状況を調査した結果、1か所は発生がなく、もう1か所では立枯病の発生が見られました。立枯病が発生した原因については、究明中です。さらに、5月以降に2番花の病害発生状況についても実施する計画です。農業普及課では、引き続きトルコギキョウ生産安定に向けて支援していきます。